



秀養邦海

入試のしくみを知って、自分に合う入試タイプを見つけよう! その②

学校推薦型選抜って何ですか?

特徴

出身高校の校長からの推薦が必須のため、1つの高校から出願できる人数に制限があることが多い。校内の会議で推薦候補者を決定する。学校長の推薦が得られれば全国どこの高校からでも出願できる公募制と大学が指定した高校から人数を制限して出願を受け付ける指定校制の二種類がある。**国公立大は公募制のみ。私立大学は公募制と指定校制の2種類の推薦入試がある。**

志望大学学部学科の出願要件と首里高校の推薦基準の両方を満たす必要がある。

評価方法には、小論文、面接、プレゼン、口頭試問、実技、資格試験の実績などに加え、学力試験(共通テスト)が課される場合がある。

出願条件

学校長の推薦が必ず必要。専願(合格したら必ず入学)の場合が多い。

学業成績 / 併願の可否 / 英語外部検定の成績 / 各大学・学部の設定する実績 等

出願条件を満たす成績や実績のリミットは**3年1学期末!**
総合型の出願要件よりも**高い学業成績**が求められることが多い。

入試方法

共通テストを「課さない」入試と共通テストを「課す」入試の2種類がある。

志望理由書が一番大切です。
大学のアドミッションポリシーに沿って「**学ぶ意欲**」と「**将来性**」をアピールする。

選抜方法

書類審査 (調査書・推薦書・志望理由書・学修計画書)

選抜方法は大学によって異なり、多岐にわたる。
一発勝負ではなく、一般選抜も見据えた計画的な受験プランを立てて臨みましょう。

小論文

面接

プレゼンテーション

口頭試問

学力試験 (大学独自の学力試験や共通テスト)

小論文:志望学部学科に関連したテーマについて自分の考えや意見を明確に書く。
面接:アドミッションポリシーに沿った志望理由と将来性をアピールする。
口頭試問:主に理系学部で実施される。受験生の質疑応答の態度や解答に至るまでのプロセスを重視して評価される。普段の授業の先生の教え方から学べる。
学力テスト:一般選抜でも十分戦えるだけの学力が求められる。

入試日程

11月1日~ 出願書類受付

12月以降 合格発表

不合格になった場合も想定して、**一般選抜の対策も同時並行で行う。**

学校推薦型選抜も総合型選抜と同様に高校生活で積み重ねた頑張りや大学での研究意欲をアピールできる入試形態です。**首里高校の代表として学校長の推薦を受けて出願します。合格したら必ず入学しなければなりません**ので、必ず第一志望の大学を受験してください。また、一番学力が伸びる時期に推薦の準備と一般選抜対策を同時並行するリスクもあります。「指定校推薦なら楽勝でしょ」となめてはいけません。高校の推薦入試とは全く異なります。まずは志望校を研究し、自己分析を行いましょう。進学は自分のキャリアパスの通過点に過ぎず、大学に入ることが最終ゴールではありません。志望大学の求める学生像と自分のアピールポイント、目指す将来像がマッチしているかを確認しましょう。各大学の特徴や各入試タイプのメリットとデメリットを把握した上で、自分が推薦受験に合っているのかをよく考えて複数の受験プランを立てておきましょう。